1月号

ステパノだより

No.261

『彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。』

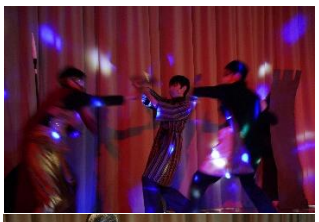
マタイによる福音書　第2章11節

◎1月の予定

6日(木)　教務委員会、教職員協議会
7日(金)　三学期始業礼拝、聖書教室
11日(火)　校内研修会、給食開始
14日(金)　小学校入学考査②～15日
　自宅学習日(小)
19日(水)　体験学習(転入)　～21日
25日(火)　教務委員会
27日(木)　マラソン大会
28日(金)　マラソン大会予備日
　教職員協議会

◎2月の予定

4日(金)　中学校入学考査～5日
　自宅学習日(中)



聖劇、創作劇

映画みたいな聖劇でした！

◎今月の行事から

○三学期始業礼拝　1月7日（金）

新型コロナウイルス感染症対策をする形の特別礼拝が続きます。まとめと準備の三学期を、小中の最高学年がホールに集い、他学年はzoomを利用し、心を一つにしてスタートすることができました。

○マラソン大会　1月27日（木）
　予備日　28日（金）

マラソン大会は、冬季に適した持久的な運動として体力の向上を図ることを目的とし、今年度は、本来の計画の通り、大磯運動公園にて実施する予定です。現在学校で行っている感染対策は引き続き行い、保護者の方の応援も各家庭一名に限定させていただいての実施となります。

児童生徒には、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの体育の授業、各自の取り組みなど、意欲的に前向きに参加する気持ちを持って、友だちと共に高め合いながら持久走に取り組んでほしいです。当日は、全員が最良の体調で、最後まであきらめずに練習の成果を発揮できるように、願っています。

保護者の方々のご理解と、温かい拍手をどうぞよろしくお願い致します。

ニューイヤーコンサート

学園長　小川正夫

コロナウイルスの感染拡大も三年目を迎え世界中の人達が共通して困難を経験している中で明るい気持ちで交わす「あけましてお目出とうございます」という挨拶の声も小さくなりますが、こうして皆さんとともに平和に新年を迎えられることを感謝しております。

今年も子ども達が幸せな毎日を送れますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

毎年迎える正月、楽しみにしていて欠かさず視聴しているＴＶ番組にウィーンフィルハーモニーのニューイヤーコンサートがあります。今年の指揮者、巨匠バレンボイムさんは、アンコールを求める観客に向かってこのようなメッセージを送っていました。

「今こうして音楽を愛する人達が同じ思いで集まっています。そして、みんな笑顔で揃って大きな拍手をしてくださいます。コロナ感染症の為でもあるかと思いますが、世界はバラバラに離ればなれになっていくようで寂しいです。音楽を愛して一つになりましょう。」

アンコールの定番、ヨハン・シュトラウス二世の「美しき青きドナウ」の演奏を聴いていると、演奏者一人ひとりの口元がいつもと違うことに気が付きました。皆さんが演奏しながら穏やかな笑顔で静かに歌っていました。

ライブで世界に配信していると思いますが、私にも、和やかな気持ちが伝わってきました。

どんな歌詞の歌を歌っていたのだろうと演奏が終わった後、歌詞を探してみるとありました。ドイツ語と日本語に訳したものでした。

オーストリアが戦いに敗れ、敗戦で意気消沈していた若者たちを勇気付け、希望が持てるように、そしてドナウ川の流れの美しさを、愛する人を想うように讃えて歌われています。

学生時代、音楽特講でベートーベンの話を聴いていましたが、ドイツ語の先生でもあった辻荘一先生の、「ドイツ語は世界で一番美しいと思う、だから優れた音楽家がたくさん生まれているんだ」という声が思い出されます。

もっとドイツ語をしっかり勉強しておけば良かったと思います。

日本語訳は、このような歌詞でした。

「いつも青きドナウよ
なんと美しく青いことか
谷や野をつらぬき
穏やかに流れゆき
われらがウイーンに挨拶を送る
汝が銀色の帯は
国と国を結び付け
わが胸は歓喜に高鳴りて
汝が美しき岸辺にたたずむ」

五十数年前のことですが、ウイーンを訪ね、ドナウ川の岸辺にある、マーガレット教会のそばにたたずんで、雨上がりのドナウ川の流れの川面を眺めているとき、本当に、とうとうと、ゆっくりワルツのリズムで踊りながら流れていたのを思い出しました。

ステパノ学園に生活する子ども達や先生方は、毎日、同じ言葉で祈り、同じ言葉で聖歌を歌います。子ども達は歩きながら聖歌を口ずさんでいることがあります。

不愉快な気持ちで歌を歌ったり、怒りを覚えながら歌うこともないでしょう。憎しみを感じながら歌うこともできません。一人部屋の中にこもって歌っているより、気の合う友達と歌う方が楽しく、周りの人達も楽しくなります。歌うことは倍祈ることとも言います。

コロナ時代、人と人との間に距離を保ち、離れ離れになり、離れて座り、飲食以外は常に顔の半分を覆い隠し、ひそひそと話し合い、歌をうたうときは小さな声で一番だけ、食事は同じ方向を向いて黙って頂く。握手も控え、肘を当てあって挨拶を交わし、人が触れたところは、離れたあと、すぐに消毒する。授業はリモートで行っています。

アンケートに応える子ども達は、マスクをして話す先生の言葉が聞きにくい、短大の学生は、友達をつくりたかったといいます。

困難を乗り越えるまでのやむをえない対応ですが、一日も早く、親しく、朗らかに友達と遊ぶ日が来ることを願わざるをえません。

神様は、私達に、乗り越えられない試練はお与えにならないとあります。人間の叡智はこの試練を必ず乗り越えられると信じて、子ども達を確り護って行きましょう。

忍耐はきっと希望につながります。

習慣教育

副校長　佐藤　紀明

先日、興味深いテーマの本を目にしました。「どうしたら学業や社会で成功する人を育てることができるのか？」という内容で教育者や研究者が議論を重ねる中で優秀な子ども達には共通する習慣があることが分かりました。

ハワイワイキキビーチ近くにあるワイキキ小学校は、学区内に住む子どもが通う普通の公立小学校です。低所得家庭も多く、決して恵まれた環境でなく、学力調査でも学力的に厳しく成績不振校でしたが、ワイキキ小学校は先程の優秀な子ども達に共通する良い習慣を学校の教育方針として取り入れたところ、全米成績優秀校に贈られる「ブルーリボン賞」を三回受賞する成績優秀校に変わったのです。ワイキキ小学校が取り入れた良い習慣とは、

【16の良い習慣】

○やり抜く習慣…諦めない、やり続ける
○衝動を抑える習慣…行動前に考え落ち着く
○共感して聞く習慣…注意深く聞く、気遣う
○柔軟に考える習慣…違う見方、別の可能性
○思考を思考する習慣…思考の偏りに気づく
○正確を追求する習慣…見直す、念には念を
○疑問を持つ習慣…鵜呑みせず、なぜと問う
○経験を活かす習慣…過去の経験を思い出す
○明晰に伝える習慣…はっきり、言葉を選ぶ
○五感を使う習慣…感じてみる、触れてみる
○創造、革新する習慣…ユニーク、独創的に
○不思議と発見を楽しむ習慣…観察、夢中に
○チャレンジする習慣…勇敢、リスクを冒す
○ユーモアを持つ習慣…楽観、肩の力を抜く
○共に考える習慣…協学する、共に学ぶ
○学び続ける習慣…興味を持ち変わり続ける

ワイキキ小学校では、この16の習慣を育てることを目標にしていますが、これら全てを一度に教えることは難しいです。先ずは一つの習慣からスタートして、時間をかけて他の習慣を指導していくシンプルな流れです。

毎月、一つの習慣をテーマに掲げ、学校と家庭が連携して子どもに意識づけるといった地道な活動です。子どもを取り巻く人達が同じ習慣を意識し、同じ言葉をかけ続けることで、必然的に習慣に対する意識が高まります。親や先生が根気強く声を掛け、励まし続けることで、一人ひとりが自分達のできる範囲で諦めずに思考し、課題に粘り強く取り組んでいく習慣を身につけることができるのです。

近年、教育界において「やる気」「粘り強さ」などの「非認知能力」が注目されていますが、習慣教育は「非認知能力の具体的な育成法」であり、ワイキキ小学校の例は、非認知能力を鍛えることが、学力に良い影響をもたらすことを証明したケースと言えるでしょう。

ワイキキ小学校の実践により、習慣の力は、家庭の経済環境や家柄、国籍や持って生まれた才能に関わりなく、誰でも訓練によって高めることができることが明らかになりました。

習慣力は、本質的には学校や先生に教えてもらうものではなく、良い習慣を育てるには、「親」が中心となることが大切だそうです。親が子どもと協力をしながら、親自身も習慣を変えていくことで育ちます。データでは、優秀な子どもを育てている家庭では、周囲から言われなくても良い習慣を実践しています。習慣を作ることは難しいことではありません。先ずは何か一つに集中して、親が良い習慣が身につく仕組みを作ってあげることで大きな効果を発揮していきます。家での過ごし方、遊び方、声のかけ方、サポートの仕方、与える環境、親の行う小さな行動が子どもの習慣を大きく変えるきっかけとなります。優秀な子どもが育つ家庭での習慣教育の共通点は、

・勉強しなさいと言わない
・勉強は学校や塾任せにせず親が教えている
・本を好きにさせ、興味を引き出している
・習い事を全力でさせ、サポートしている
・小さなことも、子どもに選択をさせている
・食事中の楽しい雑談を大切にしている
・子どもに考えさせる質問を多くしている
・ボードゲームやカードゲームで遊んでいる

習慣作りを意識して、子どもとの接し方を少し変えるだけで思考と行動習慣が変わってきます。習慣教育が、自ら学び、自ら考える力を育むのです。学校でも家庭でも子どものより良い成長を願うことは一緒です。正しいこと、良いことは学校でも家庭でも取り入れ、習慣教育を連携・実践していきたいです。

備えよ常に

教諭　赤田　祐章

二〇二一年十月七日、二十二時四十一分頃、千葉県西北部を震源に最大震度五強の地震が起きました。翌日の公共交通網は、安全確認のため、朝から不通。学校の始業時間も遅らせての登校となりました。これは東日本大震災に次ぐ大きな揺れで、たくさんの方が、驚きと不安な一夜を過ごされたことと思います。

東日本大震災が起こって、もう十一年が経とうとしています。『天災は忘れたころにやってくる』と言われますので、今一度、防災について考えてみたいと思います。

表題の『備えよ常に』は、ボーイスカウトで良く使われる言葉で、本校の小川学園長も教員が揃う朝の会で、度々私たちに訓示してくださいます。意味は、「いつなん時、いかなる場所で、いかなる事が起こった場合でも、善処ができるように、常に準備を怠ることなかれ」と考えています。

さて、実際に大震災が起こった時に、どのような行動を選択するのが良いのでしょうか。学校ではシェイクアウト訓練を実践しています。

①身を低くする。
②頭を守る。(教室などでは、机の下に体を入れ、机の脚を持つ)
③揺れがおさまるまで、じっと動かない。

以上の三点です。

その後は、ラジオなどで情報を集め、津波警報が発令された場合、海の見えるホールへ全学年が避難します。

大磯の津波の最大予測は十七・一m(二〇一五年三月四日・産経新聞)と考えられています。本校のグラウンドが標高約二十m、海の見えるホールは四十m弱です。想定の二倍を確保しています。

食料の備蓄は現在三日分を確保しています。しかし、南海トラフ大地震が起きたとすると、今まで以上に大きな被害が起こる可能性があり、一週間分の備蓄も考えていかなければなりません。学校でもこれから検討に入るところです。

また、地震は学校にいるときにだけ起こるとは限らず、登下校中に起こる可能性も低くありません。その時、学校まで、家まで自力でたどり着くことができる距離なら良いのですが、様々なケースも考えておくことが必要です。一番悲しいケースは、児童・生徒と保護者が、お互いを探して動き回ってしまう場合です。最悪を回避するために、東海道線の各駅でもしもの時に待ち合わせる場所を事前に決めておくことが良いと思います。また、災害発生時に多くのホテルが宴会場などを避難場所として開放してくれることが多くあります。身を守るための知識を蓄えておくことが大切です。

さてインターネットでは、防災教育に関して、クイズ形式や映像で楽しく学べるサイトがあります。

例えば『東京消防庁〈キッズコーナー〉〈みんなの防災クイズ〉』では、地震・火災・生活事故について、低・中・高学年、それぞれ十問ずつを二択で学べます。『もしもに備える防災クイズ』(NHK災害アーカイブス)では、どーもくんと一緒に全五問を三択で学べます。『親子で学べる防災クイズ』(こくみん共済〈全労済〉)では、備えておくモノ別(五ジャンル)・災害別(七ジャンル)を、それぞれ全十問、三択で学ぶことができます。

映像だと『地震に備えよう！ストレッチマンレスキューあらわる』をはじめ、NHK for School では、防災に関する知識を学べます。また、内閣府ではリアリティーのある実写で、消防庁では親しみやすいアニメとクイズで、学びができます。

学校教育の一環として、防災教育を行っていますが、ご家庭でも親子で学んでいただけると、より深い理解が得られます。お子様一人ひとりの命を守るため、年齢に適した知識を身につけ、いざというときに正しい判断ができるようになって欲しいと願っています。これからもご協力をお願いいたします。

※安否情報はニッポン放送・学校安否情報(神奈川私立、第1ブロック)で確認できます。災害時伝言ダイヤル(一七一)も使うことができれば、さらに安心です。

神様からの贈り物

教諭　黒澤　優

この一～二年で時代が急速に進んだような感覚を覚えます。これからの時代は情報の時代と言われています。これまで私たちはインターネットを用いて情報を得るということは比較的に行っていたと思いますが、コロナ禍において、自分自身が情報の発信源となる経験をした人は多いのではないでしょうか。

私たち教員は、一昨年前YouTubeで授業動画を配信するということを経験しましたし、社会では多くの実店舗での経営が縮小される一方で、人々はオンライン上で自分の商品やスキルを簡単に売り出すことができるようになりました。

それに加えて、人工知能の発展により、労働者の人口が減っている職業も出てきています。人間の知能や行動に代わるアイテムがなかった時代には、ひとりひとりが同じことを同じようにできることに高い価値が置かれていたと思います。しかし、これからの時代は、ひとりひとりがもって生まれてきたオンリーワンの個性や感性の価値がますます高くなるのではないかと思います。自分自身の個性を世界へ発信し、社会の中で自分の個性を輝かせることが、これからの時代をよりよく生きるために大切なことではないか、と最近思わされています。

先月、本校ではクリスマス祝会が行われました。中学校では、今年度初めての試みとして、学年ごとに分かれて創作劇を披露しました。劇の脚本は生徒たち自身が一から考えました。

私が所属している学年の中学三年生たちは、”Hope and Dream～神様からの贈りもの～“というタイトルの劇を演じました。物語の概要を少しご紹介します。主人公の「のぞみ」と「ゆめ」は大親友で、同じ高校に進学する約束をしていました。しかしながら、二人は全く違う才能を持っていました。紆余曲折を経て、二人は自分の才能を生かすことの大切さに気づきました。そして、自分の才能と個性に応じた別々の進路に進む決断をするというストーリーです。

この劇のタイトルにある「神様からの贈り物」というのは、自分の個性や特技、才能のことを指しています。劇中で**「神様は俺たちに素晴らしい贈り物をくれているってことだ。俺たちもその贈り物に感謝してみんなを喜ばせなくちゃいけないだろ！」**という漫才師のセリフがあります。この言葉によって、主人公ののぞみとゆめは自分たちに与えられている才能を生かした高校生活を送ろうと決意します。

聖書の中には、「タラントン」のたとえ話があります。（マタイによる福音書24章14節～28節）聖書が書かれた時代のイスラエルでは、タラントンとはお金の単位のことですが、ここではタラントンは神様が私たちに与えてくださった賜物にたとえられています。神様は与えられた賜物をしまっておくのではなく、生かす人を喜ばれます。

中学3年生にして、このような人生の本質の気づき、劇中で表現できることは本当にすごいことだと思います。悩みや葛藤を多く抱える思春期にこれに気づき、進路を選択していけることは人生の宝です。中学3年生には、この価値観をしっかりとにぎって、新しい進路に大きく羽ばたいてほしいと願っています。

聖書を読んでいくと、個性を輝かせることが、今の時代に限ったことではなく、世界の始まりから、神様が私たち人間に望まれている生き方なのではないかと思います。

中学校の目標は「個性・協力・自律」です。本校に赴任してから、目標の一つ目の「個性」を認めること、生かすこととはどのようなことなのか、生徒たちからたくさん教えてもらいました。生徒たちの間では、お互いの個性を認めて生かすことが自然とできていると思います。また生徒たちは、友人の課題となっている部分はそっと見守り、困ったときには手を差し伸べられる優しさを持っています。これからも、子どもたちがありのままの自分を愛せる環境を大切にしていきたいです。そして、私自身も神様から与えられた贈り物に感謝して、周囲のひとたちに喜んでもらえる働きをしていきたいです。

【小学校】学年ごとにそれぞれ動画を撮り、お互い見合ってお祝いしたクリスマスの様子を感想にまとめました。

《小１の「主の祈り」を見て》
○一生懸命、読んでいてがんばっていた。
○歌を歌っているところが、リズムに乗ってうたえていたのがすごかった。
○最後の「メリークリスマス」が揃っていてよかった。
○みんな見ないで覚えて、ちゃんと言えていた。そして何よりかわいい。よくがんばったと思いました。

《小２の「わたしのイエスさま」を見て》
○みんな一生懸命に、イエス様の絵を描いていたのがすごかった。
○イエス様が何をしているのかが、伝わってきた。
○最後の歌を、一緒に歌いたくなった。

《小３の聖句暗唱を見て思ったこと》
○自分の撮影は、すごく緊張した。
○みんな間違えずに暗唱できていたのが、すごかった。
○３年生全員、聖句がはっきり聞こえて良かった。

《聖劇を見て思ったこと》
○学園中を見ることができた。
○天使役の衣装がとてもきれいだった。
○去年と役を演じる人が違うと、違った物語に見えた。ホールだけでなく、学校全体で撮影していて面白かった。
○映画みたいで、カッコよかった。
○知っている場所が出てきてたのしかった。

今日は、聖劇がありました。見た動画は１年生の主の祈り、中２と中３の学校の生活でした。見ていて楽しかったです。早くぼくも聖劇がやりたいです。
（小４　ｋＲ）

やど屋のところが上手でした。天使のようふくを着たら、天使みたいになることができました。羊かいのシーンの最後が上手でした。大道具と小道具をやって、よかったと思いました。作るのは大変だったけど、みんなで仲良く協力ができました。
楽しかったです。もう一回やりたいと思いました。
（小５　ＫＴ）

《中１の創作劇を見て思ったこと》
○始めの「大変だ、大変だ、大変だ～」という場面が面白かった。
○役者さんの演技（ラストシーン）が良かった。
○役者さんたちが一所懸命で、かっこ良かった。

《中２の創作劇を見て思ったこと》
○戦闘シーンがリアルで面白かった。
○冒険映画みたいで、感動した。
○戦ってるところが、めっちゃかっこ良かった。

《中３の創作劇を見て思ったこと》
○ちょっと青春っぽい感じで心が温かくなった。
○動画が長かったけど、お話が面白かった。

【中学校】クリスマスは、自分たちで脚本を書き、学年ごとに小さな劇を創ってお祝いしました。Zoomで小学生の聖劇や活動も鑑賞することができました。

中一の劇をやって、それを見た感想

（中一　ＯＹ）

私は劇をやっている時は、うまく失敗しないでできた！って思ったけど、その劇を改まって見てみたら、思ったよりあまりよくはなかったです。私は大道具係で、出し忘れとかはなかったけど、置く位置が真ん中じゃなくて端によっていて、もうちょっと真ん中へんに置いた方が良かったな、と思いました。やってみた感じとその劇を見た感じだと、全然違うんだなと思いました。

でも、出し入れはなるべく早めにテキパキとできたし、置く角度とかはちゃんとできていたので、よかったなと思いました。次に大道具をやることになったときは、真ん中へんにおけるといいです。

祝会の練習・鑑賞した感想

（中二　ＴＴ）

私は監督として祝会の準備をしてきました。まず、最初に映像を使ってプレゼンをしたおかげか、物事がすんなり進んで、最速で役割を決めることができました。その後すぐ練習を始めました。最初はセリフを間違えたり、思うように動いてくれなかったりして、どうしようかと不安になりました。でも、みんなが頑張ったおかげで、最後には素晴らしい作品になっていました。

映像で自分たちの劇を見て最初に思ったのは、ほとんどセリフを間違えていないということでした。みんなセリフを覚えてきたんだ、と思いました。また、戦闘シーンも素晴らしかったです。まるで本当の闘いみたいでした。衣装も本格的でした。国王なんか、一国の王という感じが出ていてよかったです。

少し音量が小さかったけど、ＢＧＭは素晴らしかったです。ＢＧＭは、私が音響の係と一日前まで厳選したものなので、自信があります。特に、波動を撃つシーンは、チャイコフスキーの名曲を使用しており、細かい時間の調整まで行った、こだわりのシーンです。

中学一年生の劇は、セットに凝っていてドラマのようでした。中学三年生の劇は、夕日をスポットライトで表現したり、漫才を入れたり、ナレーターを猫にしたりなど、斬新でよかったです。小学生の聖劇も神聖でよかったし、低学年の出し物もかわいらしいものでよかったです。

でも、自分は中二の劇が一番だと思います。ここまでよくできるとは思っていませんでした。本当に良かったです。最高でした。

中三の努力

（中三　ＴＭ）

今回のように、クラスで一つの物語を作るのは初めてのことで、本当にできるのか最初はすごく心配でした。脚本係の人はすごく大変そうで、締め切りに間に合うのかも心配で、何とか間に合ってからもケンカみたいな事も起こって、もうムリって思うこともありました。でもみんなの努力で、大変なこともクラスで一緒に頑張って、本番は今までで一番良かったです。監督は細かい動きやしぐさなどをしっかり見てくれ、まとめ役でムードメーカーでした。役者さんたちもお互いの演技を見ながら、自分たちで直して、より良いものを作ろうという気持ちが伝わってきました。

劇のテーマは、「自信を取り戻す・挑戦・変化・夢・友情」というものでした。これは、劇の中だけでなく、練習中にも演技していないときにもそうだったと思います。まず、脚本を自分たちで作る事、ケンカとかあって、もうだめかもって思ったのに、劇を完成させるにつれて仲良くなっていって、最後にはみんなで笑っているときに、「あっ、このテーマって本当に自分たちに合っているテーマだな」と思いました。このクラス、中三にしかできない劇だったと思います。

このオリジナル劇で、二学期の行事が終わり、私たちはまた、受験に向けて頑張っていきます。楽しくていい思い出になりました。先生方やクラスのみんなに、本当に感謝です。

今号は、根田栄子先生にお話を伺いました。

――どのように音楽と出会われたのですか？

「父が音楽好きで、幼少期から影響を受けましたが、西洋の音楽よりも民謡を好んでいました。小学校一年時、父と一緒に三味線と民謡を習い始めたことが初めの出会いです。父より三味線の上達が早く、私は三味線を弾き語り、父は一緒に歌う形で楽しむようになりました。音楽大学では声楽を専攻しましたが、民謡の発声法しか知らない子ども時代でした。

中学校から、本校と同じ聖公会の香蘭女学校に進学したことが、西洋音楽に強く惹かれる契機になりました。卒業後には宝塚音楽学校に入学する先輩が代々いる環境でもあり、ファンとなって友人と共に日比谷の宝塚劇場でワクワクと観劇し、いつしか自分も宝塚音楽学校を受験したいと思うようになりました。高校時代、両親に頼み込んで、初めてピアノ、声楽、バレエを習い、本命の宝塚受験の練習のつもりで音楽大学の推薦入試を受験したのですが、思いがけず合格したことで音大に進学しました。大学では、バレエや日舞、パントマイムの授業もあり、宝塚ファンの同志にも多く恵まれ（笑）、好きなことを沢山できて楽しい学生生活でした。

教職課程でも学修し、公立中学校での実習時には、緊張のあまりどこを弾いているのかわからないピアノに震える声で歌いましたね。その時に一番優しく振舞ってくれた生徒は、荒れた印象の生徒でしたが、色々な子ども達に出会って話をするうちに教職への魅力を感じました。卒業後は専攻科でオペラを学んだ後、教員を志しました。立教小学校の採用では、七～八名の中から最後の二名に残りましたが最終的にご縁が無く、教会関係者の紹介で本校にご縁が繋がりました。後に本校に着任された小川正夫校長は、なんと立教小学校の最終面接でお会いした先生でした。ご縁は面白いですね。当初は音楽科・笹尾和子先生の産休代理で勤めた本校での時間が最高に楽しく、名残惜しく感じていたところ、専科講師のお話をいただき、即答しました。小学校の教員免許も追加取得し、担任となって、教えることを懸命に学んだ日々でしたね。

二十数年前からご一緒の先生方も多いのですが、常に全力で良いものを創ろうと取り組む良い関係性です。また、子ども達は真面目で純粋、本当にいい子ども達で、制約の多いコロナ禍での音楽も鑑賞などを楽しんで取り組んでくれています」

海の見えるホールのパイプオルガン設置を契機に、レッスンを受けてオルガン演奏を初めて学ばれたという根田先生、穏やかな雰囲気を纏いながらも、常に新しく学ぶことへの情熱的なエネルギーが感じられました。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

◎令和三年度　緑化運動・育樹運動
ポスターコンクール　小５　K・R

◎第89回全国書画展覧会
銅賞　小３　O・Y　小４　S・H　中１　O・S、O・H、K・R　中２　K・T　中３　A・N、A・T、N・D
銀賞　小３　C・S　小４　F・Y　小５　I・N　小６　I・H、N・O、F・C　N・S中１　A・N、K・H、N・R　中２　O・S、O・M、S・A、M・K　中３　A・H、K・S、K・M、T・M、N・H　F・Y　M・S　Y・A
金賞　小６　H・U　中２　A・K、M・A

◎第60回大磯町民ロードレース大会
中学男子１年の部
第一位K・H　第二位S・H　第三位N・R
中学女子１年の部
第一位A・N　第二位　H・M
中学男子２年の部
第一位O・S　第二位K・F　第三位M・K
中学女子２年の部　第一位　M・A
中学男子３年の部　第一位M・K　第二位H・H
中学女子３年の部　第一位　K・M

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯８６８
ＴＥＬ　０４６３－６１－１２９８
ＦＡＸ　０４６３－６１－９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二二年一月十八日（火）発行　第261号